

地域農業の在り方等を踏まえた市町村支援計画等の概要

【地区の概要】

- 水稻と園芸が主体の中間農業地域
- 農業従事者の減少、高齢化の進行により耕地面積の減少が課題となる中、農地の維持に向け、ほ場整備、農地の担い手への集積、高収益作物の栽培振興を図りながら、担い手の農業経営を一層強化する必要がある地区

【支援内容・背景】

- 農地集約化による担い手の経営規模拡大及び経営強化に向け、作業の効率化、高収益作物等の導入・安定生産を支援する必要。
- 助成対象者は地区内の中心経営体として、水稻と園芸作物の複合経営を営む者であり、ほ場整備に取り組みながら、高齢化による離農者の増加に対応し、農地の受け皿として経営面積を拡大。さらに、水稻の防除及び収穫、乾燥調製作業の受託にも積極的に取り組み。
このため、地区内における複合経営の経営強化のモデルとして育成・支援。



助成対象者「庄司 茂雄」の経営の状況と事業内容

【経営の経緯】

- 平成23年 両親の個人経営(水稻・きゅうり)で就農
- 平成30年 両親から経営を承継
- 平成30年 太郎野機械利用組合(任意組合)を設立し、組合長に就任。ミニライスセンターを整備
- 令和4年 経営地で基盤整備着工
- 令和5年 水稻の作業受託を本格的に開始
- 現在 経営の安定化のため、法人化を検討中

《事業活用の背景》

○ 経営規模拡大及び生産性向上を図るため、降雪前に作業が逼迫する秋作業の効率化が必要。作業時間の削減、作業受託の拡大に向け、収穫作業等の効率化に資する高性能機械を導入。

【事業実施時の状況】
〈R4年度〉

○売上高	23百万円
○水稻	13.4ha
○きゅうり	0.2ha
○そば	1.6ha
※基盤整備中	0.4ha

【現在の状況】
〈R6年度〉

○売上高	27百万円(117%)
○水稻	12.8ha
○きゅうり	0.2ha
○そば	1.3ha
○水稻受託	16.6ha
※基盤整備中	2.0ha

《事業による整備内容》

○コンバイン 1台
(6条刈、115馬力)
事業費 13,200千円
(国費 6,600千円)

事業の効果

《対象者》 ほ場整備事業の着工により耕作面積が減少したものの、作業の効率化が可能となり、水稻の作業受託面積の拡大が実現。ほ場整備の完了後(R9以降)には経営面積が拡大し、売上高の増加が加速。

《地区》 助成対象者による地区内の農地集約化が進展し、遊休農地の発生を抑制。